令和６年度　第２回社会教育委員会議概要

１　日　時　　令和６年９月５日（木）調査票を委員へ発送
　　令和６年９月 30 日（月）調査票回答期限
　会　場　　書面会議

２　委　員　（書面会議参加者）
　　有賀委員、石塚委員、加藤直樹委員、加藤まゆみ委員、木村委員
　　齊藤委員、笹井委員、髙橋委員、松本委員、箕輪委員、山下委員
　　山本委員

３　職　員　（書面会議対応職員）
　　田村生涯学習課長、蓑宮生涯学習課副課長、渋谷生涯学習課主査

４　傍聴者　　書面会議のためなし

５　概　要　　議事に係る調査票として、書面会議確認シートを送付し、回答を依頼。
　　回答内容は別紙「確認シート回答一覧」のとおり

別紙

令和６年度第２回社会教育委員会議（書面会議）
確認シート回答一覧

次第の４　正副議長の選任（委員の互選による）
議長は木村委員、副議長は笹井委員に決定となりました。

報告事項（１）令和５年度主要な社会教育事業の結果について【資料３】
【回答】 １「特に意見等ありません」12 名 　あくまで感想として「デジタルミュージアム」は郷土小田原のよさを様々な視点で凝縮してまとめて公開されることで（現地に赴くことができずとも）わかりやすく知ることができ教育効果は大きかったと思う。 ２「意見あり」なし
報告事項（２）令和６年度主要な社会教育事業の予定について【資料４】
【回答】 １「特に意見等ありません」11 名 ２「意見あり」１名 ・「おだわら市民学校」については、まちづくりのための人材育成を目的に開催されていると思いますが、10 月に豊川地区の子育て広場にも市民学校の学生さんが見学に来られる予定です。支えるスタッフも高齢化がすすみ、ぜひ若い方の参加・協力に期待したいところです。
協議事項　社会教育委員の活動及び今後取り組む研究調査テーマについて【資料５・６】
（補足説明） 今後取り組む研究調査テーマについて 「事務局案」としては、前期の協議を踏まえて、生涯学習について、さらに深く掘り下げることによって具体的な方策を検討したいという主旨から、生涯学習の本質的な問いでもある「生涯にわたる学びとの出会いと継続、つながりの支援について」といたしました。 このテーマについては、全ての人に生涯にわたる学びとの出会いの機会をどのように提供するのか、出会うことのできた学びを継続していくにはどうしたらよいのか、学ぶことを通じて知り合った仲間や、学びを深めることで出会う人とのつながり、学びと活動の好循環について支援していくにはどのようにしたらよいのかなど、生涯学習活動を支援するに当たっての諸課題について様々な角度から検討していただくことが可能かと思います。

なお、事務局案のテーマはあくまでもテーマの方向性を示したものであり、具体的なテーマ、協議事項及び協議の進め方については、次回の会議において、委員の皆様に検討していただきたいと考えています。

【回答】

1 「事務局案の方向性でよいと思う。」11 名

・補足説明からイメージすると「前期の協議を踏まえて」「具体的な方策を検討したい」をキーワードとし、「全ての人に生涯にわたる学びとの出会いの機会をどのように提供するのか」「出会うことのできた学びを継続していくにはどうしたらよいのか」「出会う人とのつながり、学びと活動の好循環について支援していくにはどのようにしたらよいのか」について検討していくととらえられます。テーマをすすめるに当たっては、課題解決につながるような視点をもち、道筋を立て、実践に結びつけていくことが求められていると思われます。様々な角度からの検討を最終的にはどうまとめていくのか、イメージしながら進められればと考えます。報告等の形式についても今期は未定でしょうか。

・益々「世代間交流」の推進ができると良いですね。ただ、私の思う交流は、催事やイベントということではなくて、「人生観」「価値観」などの精神的な交流ができれば、の意です。上手に表現できませんが、核家族化が云われて何十年…今や婚姻に代表される家族構築もなかなかの昨今、年長者の方々の次世代に継ぎたい事、想い、逆に子どもたちのおじいちゃん、おばあちゃんに思うこと（かっこいい祖父母像？）などの情報交流ができると良いですね。

2 「取り組みたいテーマがある（具体的に御記入ください)。」に△印記入　1 名

・内容がかなりあいまいで、具体的テーマが必要です。

その他（御意見等ございましたらお願いします。）

【回答】

1 「特に意見等ありません」10 名

・先期は最終回のみの出席でしたが、非常に目標に則したレベルの高い会合であることがわかりました。是非、豊かな人生への一翼を担う委員会として邁進したいです。

2 「意見あり」２名

・今年はやはり「防災」に目を向ける年ではないかと考える。地震、台風等への備えなど、どの世代も、小田原のどの地域でも、じっくり見直す機会をつくり出す必要は感じる。「命を守る学び」には、特に力を入れられたらと思う。

・(研究調査テーマの「生涯にわたる学びとの出会いと継続、つながりの支援について」は）かなりむずかしいテーマなので、いろいろな人から話を聞く必要があると思います。テーマ自体は賛成です。